

「21世紀へのキーワード」調査より思う

全国個性化教育連盟常任理事・日本数学教育学会常任理事
久保山滋（芦屋大学）

とうとう五年後に迫った21世紀。目まぐるしく変わりつつあるこの社会状況の中で、あわただしく中央教育審議会が発足しました。

「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」を目標に、心の教育の充実、自己教育力の育成、文化の伝統の尊重と国際理解の推進等の現学習指導要領。そして今日では、21世紀以降の教育課程について、最近多方面からの検討が始められました。

これからは総合的な検討と共に研究実践が加わって21世紀の教育のあり方を目指して子供の立場に立った教育改革が大切といわれます。

まず「21世紀の時代と人間像」の検討、「21世紀に必要な教育課程」「改良すべき教育内容」の検討がなされなければならないと考えます。

例えば未来の教育課程に向け算数・数学科であれば「何のために算数・数学を学ぶのか」について答えられるものでなければならないと思うのであります。また現実の重要なものである「自己教育力」をより一層進められているものでなければならぬでしょう。このような現状の中で「21世紀の算数・数学の教育課程を考える会」として「次の教育課程の改定」を目指して、研究を続けておりますが、平成6年度より平成7年度にかけて「算数・数学科の新しい教育課程を考えるキーワードについて」のアンケートを実施しました。検討すべきキーワードについて算数・数学担当の方から意見を集計して分析を行っておりますので、その一端をご報告致します。

アンケートキーワードについて3部にわかれておりⅠ「21世紀の算数・数学教育を囲む背景や社会状況」(13題)Ⅱ「算数・数学教育を囲む教育の状況」(26題)Ⅲ「算数・数学科の目標・内容・方法・評価」(28題)以上のⅠⅡⅢの観点について、検討すべき重点キーワードを求めたものです。全国の算数・数学関係の方々より報告いたしますと次のようです。回収数748名で複数回答である。

重点キーワードの各項目上位3つを報告しますのでご判断して下さい。

I 項目(複数回答)

N01 週休2日制、勤務時間、形態の多様化 (370)

N02 情報ハイウェイ(340)

N03 地球環境の保護・緑化・生涯教育(320)

II 項目

N01 学校へのコンピュータ導入(470)

N02 余裕ある教育課程(400)

N03 自己学習力・教科内容の精選(390)

III 項目

N01 数学的な考え方の指導の具体化(400)

N02 創造性豊かな人間の育成(380)

N03 コンピュータの活用(350)

これは数学科に関する方々の重点キーワードの上位であります。

これらのことから21世紀の教育課程を考えていく際のキーワードとしてまとめてみますと

I 21世紀の教育に影響する広域の環境

1)週休2日制 2)家庭の変化 3)社会・科学技術の急速な変化 4)コンピュータの急速な変化・普及 5)価値観の変化 6)諸外国の動向 7)人工衛星 8)地球環境等があげられます。

II 教育界の変化・動向

- 1)すべての児童・生徒への教育の徹底
- 2)学校コンピュータの普及
- 3)T・T方式 4)理工離れ
- 5)評価(学習指導要領の改訂と同時に)
- 6)創造性の伸長(批判精神、好奇心)

以上ⅠⅡを総合してご判断して下さい。この中でT・T方式が重要な課題と考えます。

児童・生徒のために何がもっとも重要なのかと考えましたとき、教科にこだわることなく全体的な視野に立った教育改革が大切と思われま。このT・T方式の研究は未来社会にとってかかすことの出来ない課題であり、すべては子供の側に立った教育改革に教師が立てるかどうかにかかっていると思います。そして個性化教育連盟は重要な立場となると考えます。

<<学期研究会報告>>

「ティーム・ティーチングの実践と課題」

12月9日(土) 上智大学

講演

T・Tの課題と展望

愛知県大府市立大府中学校教頭 成田幸夫

学びのメカニズムと
ティーム・ティーチング

神奈川大学助教授 奈須正裕

実践発表

東京・豊島区立高田小学校
千葉・八余市立高津中学校



講演 ①

ティーム・ティーチング
の課題と展望

愛知県大府市立大府中学校教頭 成田幸夫

子供の学びの姿を見る、ということを中心に、講演をしていただいた。T・Tが目的ではなく、T・Tをきっかけにして、学校全体として、教師の指導観を変えていくのである。T・Tにより多様な授業を作ることができる。個性化とはほぼ同意義である。

また、学校体制として子どもの学びの姿をどう捉えようとしているか問題となる。生徒を見るフレームを用意することによってだれでも学びの姿を見とることができる。これの積み重ねによって関心・意欲の見方が変わる。このことによってなぜ多様な学習形態をしなければならないのか理解でき、記録係として複数の教師が必要となる。

全校T・T、学年T・Tというフレームを考えることによって、教育内容を考えていく。それには選択教科に前向きな評価をすることである。例えば、南吉研究を選択教科で学習し劇・音楽など使って文化祭で発表することは、異教科チームのT・Tである。文部省も総合学習として選択教科を挿入している。このように学年や異教科をこえて複数教師が教科に入っていく指導や、幅広い教育が必要である。

生徒の見取りについてという目標をはっきりさせた研究授業をする必要がある。特に中学校では子どもの学びの姿を本当にとらえる努力をする必要がある。このときにT・Tは有効な方法である。

講演 ②

学びのメカニズムと
ティーム・ティーチング

神奈川大学助教授 奈須正裕

複数の教師で、従来の教師のサイズを変えて行うものがT・Tである。T・Tをやれば個に応じた指導になるということはない。T・Tがこの問題にどう絡むのかが重要である。

1つ目の事実認識として、人は全て個性的存在である。学習に影響する個人差がある。また、教師の指導内容の習熟度にも差がある。さらに教師の個性も指導に影響する。2つ目には、本来的には個性的な人間の相互作用関係(この場合は、担任と子供の関係)には、相性がある。学級王国の悲劇である。このことを研究データにより説明した。3つ目は、個人差の存在や相性の問題の存在を無視・隠蔽してきた運命共同体として一学級一担任制がある。この認識に立って、T・Tでは個人差の存在や相性の問題を組織的対応をしようとしたのである。

だからT・Tではスタッフィングが問題となる。T・Tでは教師はジェネラリスとではなく、スペシャリストとして担当すればよい。質的に違うものが協力的に行えばよいのである。現在は量的な原理でやっているが、質的な原理でやればよい。教師はアクターではなくコーディネーター・プロデューサー役をしなければならない。学級は同学年齢異質集団の原理である。生活指導ではよいが、学習指導ではよくない。したがって、一時的に等質集団に再編成をする。その場合、学習内容や方法で等質な集団がある。

T・Tは個人差を認め、マッチングさせることである。異質であることを当たり前のこととして認めることである。最後にT・Tは新しいものではない。昔は地域でT・Tをやっていた。昔に戻るための組織であると結ばれた。

実践発表 ①

東京・豊島区立高田小学校
河村祐好・楢山和夫・大谷かおり

都心の過疎校で学級数8、校舎も従来方式の学校の実践である。この学校では、T・Tによる指導法を取り入れ、全校の指導体制や授業の改善を図りながら、一人一人の児童の個性や意欲を伸ばそうと考え、研究を行っている。

全校でTTに取り組むために、時間割りの工夫を行っている。例えば、1・2年の生活科を同一時間に設定したり、ブロックごとの体育の授業をしている。異学年合同でも、学習が進められる。ミーティング時間を生み出す工夫には、この学校の特徴が出ている。TTを実施するにはミーティングが重要であり、この成否を握るものであると考えている。ミーティングの意義としては、これがT・Tによる研修であるとともに職員の共通理解の基本となっていることを発表された。このようなことをT・T加配の先生や本年度転動してきた教師が実例を持って発表された。

詳しい実践は黎明書房・「小規模校におけるティーム・ティーチングの考え方・進め方」をお読み下さい。

実践発表 ②

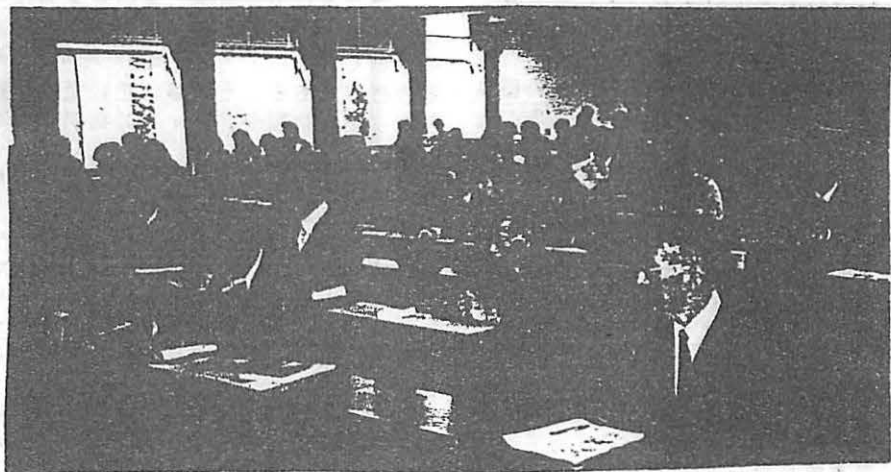
千葉・八千代市立高津中学校 植山山紀

日常の授業の中で、「数学の何を育てるか」「数学で何を育てるか」を考えているかを発表された後、これまでの実践した単元及び授業形態を話した。この中で個に応じた授業をするために、図書室の活用を図っていた。

次に、課題学習「ピクの定理」の学習について、中学校の数学科の従来方式の校舎での実践です。T・T加配教員がいるが、中学校では時間設定に難しさがあり、週に一度の決まった時間しかT・Tを組むことができない中での実践である。いて、ビデオテープにより実際の授業の説明をされた。その中で、A、B、Cの3人の生徒の特徴的な学習の様子を取り上げた。A、B、Cの生徒の様子は、以下の通りである。

それぞれの生徒の個人差を考慮し、その子なりの考えを生かしつつ、A→教師とのマンツーマン指導が必要な生徒。B→教師の援助だけでよい生徒。(友人とグループ学習ができる。) C→教師のチェックだけでよい生徒。(一人学習ができる。)

この3人が居ることを常に考えながら、指導をしていきたいと結ばれた。



〈事務局への問い合わせ・連絡先〉

〒114 東京都北区赤羽南1-16-2-504
03-3903-4780 庶務部長 佐久間茂和

全国個性化教育研究連盟会報 第35号

平成7年12月16日発行

編集責任者 事務局長 高浦勝義

編集 広報部 グループ埼玉

研究会発表

富山県・福光町立福光東部小学校 10月6日
チューリップで有名な磯波平野に位置する福光町。個性化教育の歴史は古く、先進的な研究を町ぐるみで進めている。その福光東部小において、「子どもの思いや願いが生きる学習活動（問題解決の学習とT・Tの実践）」を主題（副題）に発表会が行われた。

「一人一人の思いやりや願いに共感し、T・Tによって個人差に対応すれば、自ら考えて生き生きと表現したり、行動したりすることができる」を全体仮説に生活科・算数科・社会科の3教科を中心にした公開授業と国研の高浦先生の講演が行われた。

子ども自らが学ぶために、T・Tで支援にあたりながら、問題解決学習を行っていました。どの教科もオープンスペースを有効に活用し、児童が自分たちの手で学習していることが印象に残った研究会でした。（文責 三浦）

千葉県・八千代市立笠田小学校 10月11日
昨年に引続き、今年も参加しました。それはもう一度、あのすばらしく整えられた学習環境を見てみたいと思っただからです。

受付が済むと、明るい声の1年生が押し花のしおりをもって迎えてきてくれました。

漢字や計算の「たがやし学習」から始まり、算数・社会科等の各学年の学習、そして全校で繰り広げられる「音楽集会」に至まで、子どもたちは生き生きと取り組んでいました。

田澤校長先生をはじめ、教職員の方々の個性化教育に対する意気込みを充分に感じることができた研究会でした。（文責 河合）

鳥取県・倉吉市立上北条小学校 10月20日
上北条小学校は開校6年目を向かえ、2年に一度研究会を実施し、本年は2回目を向かえました。研究主題を「意欲を持って取り組む子どもの育成」とし、サブテーマは「個を生かし育てる学習指導」を設定し研究を進めていました。本年は全校9学級、児童数217名であるので、全学年の授業を公開して研究の成果を発表していました。ここではオープンスペースを利用し、T・Tを組みながら子ども一人ひとりの個性を生かしつつ、個性を育てるために多様な授業が組まれていました。

200人以上の参加者を得て、研究会を実施することができました。指導者である国研の高浦先生からは、「小さい学校であるのに、子

どもたちが落ち着いて、個人個人がめあてを持って学習している」との講評がありました。

（文責 加藤 勇）

神奈川県・大磯町立大磯小学校 10月26日
「新しい学力観に基づくカリキュラムの再編成・総合学習を中心として」

大磯小学校は、「自ら学ぶ子どもの育成」を目指した個性化教育の研究・実践に取り組んで、今年が丁度十年目の節目にあたる。

本校では今年度から本格的に、総合学習を核としたカリキュラムの再編成の研究に着手した。それは、子どもたちの学校生活に「価値ある経験と学習の成立とをより豊かに保証しよう」という、本校の教師集団の、より強い願いのもとに設定されたものであった。

発表当日は全国各地から二百五十人もの熱心な先生方の参観をいただき、また、講師としてお迎えした、全個連の実践のパイオニア的存在である成田先生と気鋭の研究者である奈須先生からは、力強いエールと暖かいサポートとを頂戴した。有り難いことである。

今後個性化教育のよりよい実現をめざして、研究・実践の推進に努力していきたい。

（文責 池田）

千葉県・八千代市立笠田中学校 11月13日
笠田中学校は開校5年目を向かえる。採光豊かな校舎内に、子どもたちの笑顔がまぶしい。

「授業過程の再構築」というキーワードのもとに、各教科で授業作りに取り組み、日常化を目指している。T・Tやオープンスペースは、その必然である。それは、単に空間の広がりのみならず、時間やメディアの広がりをも示していた。

（文責 植田）

会費の改定について

郵便料金の値上げや諸費用の上昇の中で、会員の皆様のご協力で、会費の値上げをせずにまいりましたが、会としての努力も限界に達しましたので、夏季研修会で開かれた理事会において、会費改定について話し合ったところ、認可されました。

したがって、下記のように改定されることとなります。会員の皆様には、是非ご理解をいただき今後とも全国個性化教育研究連盟の発展のためにご協力をお願い致します。

	改定前	改定後
個人会費	3000円	4000円
団体会費	5000円	7000円